

長期ステロイド使用後に IgE 高値とヘルペス症状を追った成人アトピーの経過（56 歳男性）

症例 ID：001-50-CK | 記録日：2013 年 8 月 18 日

1. 診断・治療前経過

小学生の頃から夏は喉・肘・膝にあせも様症状、冬は頬・手の甲・肘・膝の乾燥とかゆみがありました。小学生のある期間には、アレルギー体質を変えよとの説明で注射治療を受けましたが、効果がはっきりせず通院を中止しました。

中学生から高校生の頃、冬に肘や膝がかゆく発疹が出ると、皮膚科で内服薬とステロイド外用薬による治療を受けました。大学生の頃にも漢方煎じ薬による治療を試しましたが、症状悪化とかゆみの不安から数か月で断念しました。社会人後もステロイド外用薬、内服薬、時に注射を使用し、34 歳時には全身の炎症、手足の水疱、リンパ液漏出がありました。43 歳時に松本医院を受診されました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	小児期の注射治療、思春期以降のステロイド外用薬、社会人後のステロイド注射・内服薬・外用薬の使用歴があります。
製品名	ダイヤコート、リンデロンなど。
強度	ダイヤコートは strongest、リンデロンは Very strong です。
使用期間	小学生頃から 43 歳の松本医院受診前まで、長期にわたる使用歴があります。
中止時期	43 歳時の松本医院受診後、脱ステロイドを行いました。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後のステロイド使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
小学生～高校生	来院前	肘・膝などに乾燥、かゆみ、発疹があり、注射治療やステロイド外用薬、内服薬による治療を受けました。
18 歳頃	脱ステロイド試行	漢方煎じ薬を試しましたが、症状悪化とかゆみの不安から数か月で断念しました。
34 歳頃	重症化	激しいかゆみと炎症が全身に広がり、手足に無数の水疱ができ、崩れてリンパ液の漏出が強い状態となりました。ステロイド注射、内服薬、外用薬で抑える経過でした。
37 歳頃	別治療の試行	ステロイドを止めて水治療法を試しましたが、1.5 か月で手足の水疱、皮膚崩壊、多量のリンパ液、激しいかゆみが出て断念しました。
43 歳時	松本医院初診	煎じ薬、漢方入浴剤、漢方外用剤、消毒剤、抗生物質外用剤を開始しました。懸念していた急激なリバウンドや長期休職は起こらず、脱ステロイドできました。
治療開始～1 年以内	初期経過	顔、首、脇、内股、ふくらはぎなどにかゆみがあり、搔くと少量のリンパ液が出る部位がありましたが、強いリバウンドはありませんでした。
治療 5 年半後以降	ヘルペス症状期	右臀部から多量のリンパ液漏出と強い痛みが出ました。股のリンパ節が腫れ、臀部から太もも、足先にかけて周期的に悪化と良化を繰り返しました。抗ウイルス剤で 1～2 週間で良

		化する経過がありました。
治療 13 年時点	中間経過	IgE 抗体値は 8125、ヘルペス単純 IgG 抗体値 126 でした。足の甲に痛みとかゆみ、リンパ液漏出があり、顔・首・肘・膝はかゆみが残っていました。

4. ピーク時期

ピークは、34 歳時の全身炎症・手足の水疱・リンパ液漏出が強かった時期、37 歳時の脱ステロイド試行で 1.5 か月で断念した時期、治療 5 年半後以降の臀部から下肢にかけてリンパ液漏出と強い痛みを繰り返した時期です。松本医院での治療開始直後には、予想された最大級のリバウンドは起こらず、休職せずに脱ステロイドできました。

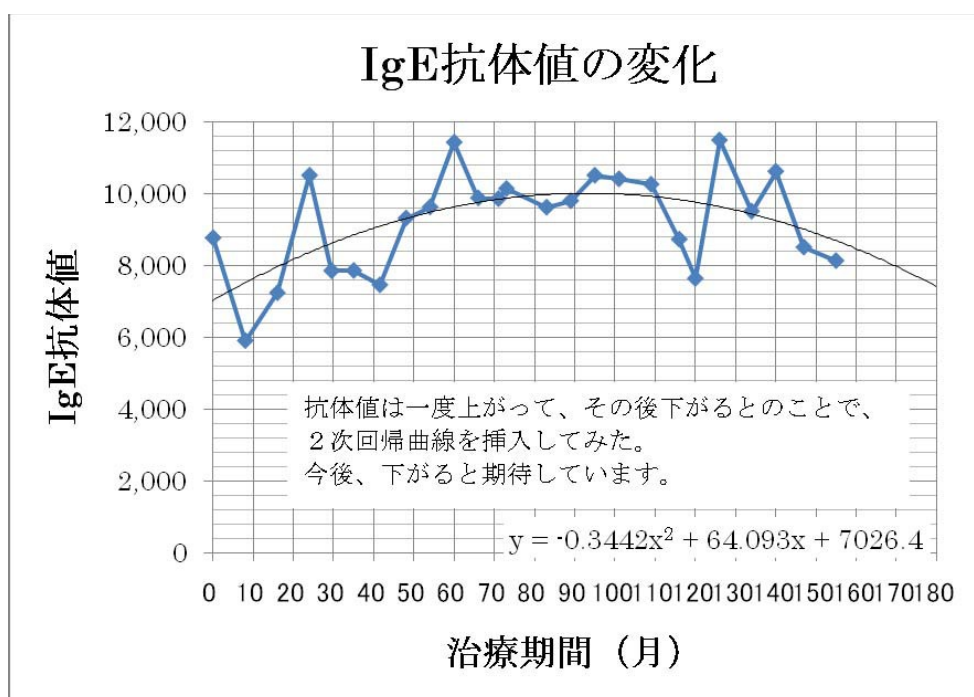
5. 患者さん・家族の困りごと

- ・小児期から長期にわたり症状と治療が続き、複数回の脱ステロイド試行で不安がありました。
- ・34 歳時には全身症状と手足の水疱・リンパ液漏出が強く、ステロイド注射・内服・外用で抑える必要がありました。
- ・治療 5 年半後以降、臀部から足先にかけて痛みとリンパ液漏出が周期的に出ました。
- ・抗ウイルス剤を継続的に必要とし、医療費の負担がありました。

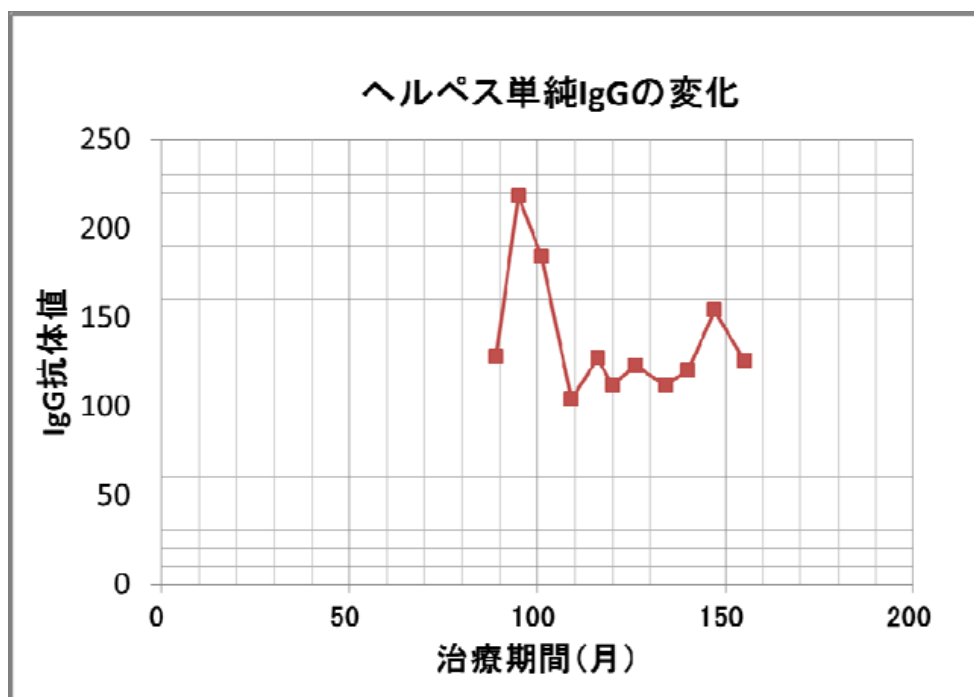
6. 検査値・写真・画像

※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。

項目	内容
IgE 抗体	初回血液検査（43 歳、2000 年 3 月 25 日）は 8760。その後 11500 をピークに 10000 付近で高止まりし、13 年後に 8125 まで下がりました。
ヘルペス単純 IgG 抗体	治療 7 年 6 か月後に 128、7 年 11 か月後に 218、13 年後に 126。
画像資料	IgE 抗体値、ヘルペス単純 IgG の推移グラフが添付されています。



検査資料 1：IgE 抗体値の推移。



検査資料 2：ヘルペス単純 IgG の推移。

7. 経過のまとめ

43 歳で松本医院の治療を開始した時点では、長期ステロイド使用歴から強いリバウンドと休職を懸念していましたが、治療開始直後には急激な悪化は起こらず脱ステロイドできました。

一方で、治療 5 年半後以降には臀部から下肢にかけてリンパ液漏出と痛みを周期的に繰り返し、抗ウイルス剤で対応しながら経過を追いました。13 年時点でも足の甲の痛み・かゆみ・リンパ液漏出は残っていますが、大きな支障なく日常生活を送っている症例です。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。